

第2回 愛知・大府飛行場中国人強制連行被害者を支援する会総会開催

2014年3月13日、名古屋市内で、「支援する会」総会が、学生など青年10名を含む50名の出席者によって行われた。



第1部は、主催者代表の石川賢作・支援する会代表委員（日中愛知県連会長）が挨拶。

続いて、記念講演を、「中国人強制連行、強制労働事件の闘いの成果と展望」と題して、森田太三・全国弁護団団長が、これまでの裁判闘争と成果を語り、中国・韓国などの新たな動きの特徴を報告し、今後の闘いの展望を示した。

第2部は、京都、岐阜、静岡からも代表が参加し、9団体・個人などのメッセージ、さらに連帯挨拶があり、強い関心の高まりと連帯感の中で進められた。

「1年の経過と今後の活動について」を富田好弘事務局長から提案。強制連行を巡って新たな情勢の展開と他の戦後補償の取り組みなどとの連携、中国・韓国での動きに呼応した国内での取り組みと、その一環として愛知がその役割を果たそうと決意を述べ、呼びかけた。

被害者調査の報告は、中国での聞き取りを赤旗記者から、北海道での調査はパワーポイントで生々しく報告された。

その他、会計報告、役員、決議など確認した。

参加者から、「成功おめでとう」「大変勉強になった」「こんなに驚き、感激した集会はなかった」など、感想が出された。

愛知・大府飛行場中国人強制連行被害者を支援する会
事務局長 富田好弘（日中友好協会愛知県連合会理事長）

（写真は、報告する森田太三弁護士）